

1. 理事会からのお知らせ

(1) 代表理事挨拶

TCER フェローおよび関係者の皆様方には日頃より TCER の活動にご支援とご協力をいただきまして、心よりお礼申し上げます。本年 6 月 7 日に開催されました評議員会及び理事会でご承認をいただき、TCER 代表理事に就任いたしました小川英治です。前任者の福田慎一東京大学教授から引き継いで、代表理事を務めることになりました。同時に、幹事校が東京大学から一橋大学に移ることとなり、代表理事代理業務執行理事に祝迫得夫一橋大学教授が、また、会計・研究会担当業務執行理事に大橋和彦一橋大学教授が就任いたしました。TCER の一層の発展と TCER におけるより良い研究環境の構築のために全力を尽くしていく所存でございます。

前執行部から引き継ぎました以下の事業を推進していきます。第一に、NBER、CPER、TCER が共同で開催する TRIO コンファレンスについて、2017 年度は東京大学で「Corporate Governance」をメインテーマにして開催されました。報告論文は国際学術誌 *Journal of the Japanese and International Economies (JJIE)* に刊行予定です。2018 年度は、「Globalization and Welfare Impacts of International Trade」をメインテーマにして東京大学で 7 月 27-28 日に開催されます。これらの報告論文も JJIE の特集号として刊行することを予定しています。

第二に、TCER コンファレンス（旧逗子コンファレンス）については、旧逗子コンファレンスの伝統を受け継ぎ、2 年計画で共同研究を行い、商業出版へとつなげていく試みが再開しております。2017 年度から 2018 年度にかけては、「EBPM の経済学：エビデンスに基づく政策立案の展望」というメインテーマの下に共同研究が続けられています。2017 年度に第 1 回目のワークショップが開催され、2018 年度には出版に向けて第 2 回目のワークショップが開催されます。

第三に、TCER=ERIA 出版事業では、ERIA（東アジア・アセアン経済研究センター）の委託を受け、木村福成慶應義塾大学教授と浦田秀次郎早稲田大学教授が中心となって「東アジアの経済統合」と題する 10 冊シリーズの書籍を出版する事業を進めています。2016 年度に 1 冊目の第 7 巻『ASEAN の自動車産業』、2017 年度に 2 冊目の第 6 巻『タイ・プラス・ワンの企業戦略』が刊行されました。2018 年度には 3 冊目の第 1 巻『アセアンライジング』及び 4 冊目の第 2 巻『アジア総合開発計画：物的インフラ整備』を出版する予定です。

今、世界経済及び日本経済は、グローバルな貿易戦争の拡大、英国の EU からの離脱、米国の利上げが及ぼす新興市場経済国への影響など、様々な不確実性に直面し、将来への見通しが立ちにくいなか、何らかのショックが起きるとネガティブに反応する傾向が増しています。TCER は、引き続き、経済学のアプローチから世界経済及び日本経済が直面する諸課題及び経済政策による対応について、研究を行い、その研究成果を知見と

して蓄積し、世界経済及び日本経済の問題解決に貢献することをめざして、活動していく所存でございます。皆様におかれましては、引き続き TCER の活動にご支援、ご協力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

小川英治（代表理事・一橋大学）

（2）新理事・監事一覧

2018年6月7日（金）をもって昨年度までの理事・監事の任期が満了し、新たに以下の方々が理事・監事に選任されました（敬称略）。

代表理事：	小川 英治（重任）（一橋大学大学院経営管理研究科・教授）
代表理事代理（業務執行理事）：	祝迫 得夫（重任）（一橋大学経済研究所・教授）
会計担当（業務執行理事）：	大橋 和彦（一橋大学大学院経営管理研究科・教授）
財務管理運用担当：	坂井 豊貴（慶應義塾大学経済学部・教授）
企画担当：	浅古 泰史（早稲田大学政治経済学術院・准教授）
渉外担当：	田中 隆一（重任）（東京大学社会科学研究所・教授）
総務（ニュースター・名簿担当）：	原 ひろみ（重任）（日本女子大学家政学部・准教授）
総務（ホームページ担当）：	武田 浩一（重任）（法政大学経済学部・教授）、 松原 聖（日本大学商学部・教授）
総務（報告書作成担当）：	寺井 公子（慶應義塾大学経済学部・教授）
監事：	宮里 尚三（重任）（日本大学経済学部・教授）、 植田 健一（新任）（東京大学大学院経済学研究科・准教授）

（3）2018年度前半の理事会報告

2018年度第1回理事会は、2018年5月11日（金）15時30分～17時00分、東京経済研究センター事務所において開催されました。平成29年度事業報告書と平成29年度会計報告書が承認されました。「理事監事候補者の選定に関する内規」に基づき、（2）に挙げた理事・監事候補者を選定し、評議員会に推薦することが決定されました。3名の新規フェローの入会も承認されました。報告事項としては、各種事業の執行状況について担当理事から報告がありました。その後、パート事務局職員就業規則の改定について、代表理事から就業規則では事務局職員の退職金は支給しないと規定しているが、現在雇用しているパートの事務局職員2名は勤続年数も長いので、慰労金という形での支給を就業規則に付け加える旨について説明がありました。しかし、慰労金の金額の目安を定める内規を作ることに 대해서는、次の当番校理事に検討を引き継がれる旨の説明が

ありました。また、規程に基づき、2018年6月7日（木）16時00分～17時00分に日本工業倶楽部にて評議員会を開催することが承認されました。

2018年度第2回理事会は、2018年6月7日（木）17時15分～17時30分、千代田区丸の内の日本工業倶楽部において開催されました。代表理事・業務執行理事が新理事の中から選定され、各理事の担当が決定しました。報告事項として、本年度の事業の執行状況について説明がありました。

（４）2018年度前半の評議員会報告

2018年度第1回評議員会は、2018年6月7日（木）16時00分～16時45分、日本工業倶楽部で開催されました。平成29年度の事業報告書及び会計報告書が承認されました。また、理事・監事の選任が承認されました。

（５）2018年度研究助成決定のお知らせ

2018年度研究助成の公募には15件の応募がありました。予算が100万円ということから、審査の結果、3件のプロジェクトを採択、助成することとなりました。

（６）ワーキング・ペーパーのSSRNへの接続停止のお知らせ

2017年度のTCERの理事会で、予算上の理由から、2019年3月一杯をめどにTCERワーキング・ペーパーのSSRNとの接続を解除するという方針を決定しました。今年度に入って、この方針に基づいて担当理事がSSRNと交渉を開始したところ、予想以上に順調に進んだため、来年まで待たずに、既にSSRNとの契約の解除と接続の停止に至っています。思いがけず早いタイミングで接続停止になりましたが、その分、TCERの予算の節約にもつながるはずですので、どうかご理解頂きますようお願いいたします。

なお、接続停止になるのは今後出版されるTCERワーキング・ペーパーで、既にSSRNに登録されているワーキング・ペーパーについてはSSRNのサイト上に残り、検索やダウンロード可能です。また、TCERのWebページから確認して頂けるように、RePEcには引き続き接続しています。

2. コンファレンス等ご案内・報告

公1 国際的学術研究・交流事業

（1）日米欧研究交流事業（TRIO コンファレンス）報告

東京経済研究センター（TCER）は、東京大学金融教育研究センター（CARF）、日本経済国際共同研究センター（CIRJE）、および日本政策投資銀行・設備投資研究所のサポートを受けて、2018年7月22日（金）にフクラシア東京ステーション（朝日生命大手町ビル6階）会議室Gで、全米経済研究所（NBER）と欧州経済政策研究センター（CEPR）

と共同で行う年次国際学術会議“27th NBER-TCER-CEPR conference (TRIO conference)”を開催しました。今回のテーマは、「グローバル化と保護主義が経済活動に与える影響」でした。

今日、世界経済ではグローバル化が大きく進展すると同時に、その経済活動に与える影響に関して光と影が指摘されるようになっていきます。とりわけ、米国のトランプ政権の経済政策に象徴されるように、グローバル化した世界経済の中で自国の利益を優先する保護主義的な動きが世界各国でさまざまな形で顕在化しつつあります。経済学では、伝統的に自由な取引が経済効率を高めるという観点から、国際資本移動の自由化や自由貿易を支持する研究が主流を占めてきました。しかし、グローバル化は、しばしば国内経済の所得格差を拡大させる一因になるなど、政治的に複雑な問題を引き起こしてきました。このため、日米欧の経済学者がそれぞれの視点から、グローバル化が国際金融市場や国際貿易のあり方に与える影響およびそれに関連した諸問題を議論することは大変意義深いと考えられます。

コンファレンスでは、国内外から参加した 10 名のスピーカーが関連テーマの研究報告を行い、指定討論者やオーディエンスとの間で活発な討論が交わされました。コンファレンスには、トップクラスの研究者に加えて、若手研究者や実務家にも参加してもらい、学術的・実務的観点から最近の国際経済のホットイシューを理論的・実証的に議論が深められました。なお、報告論文は、レフェリーによる審査を経て、国際学術誌 *Journal of the Japanese and International Economies (JJIE)* に刊行予定です。なお、プログラムは、以下の通りです。

PROGRAM

Chair: Fukunari Kimura (Keio University)

- 9:00 am Richard Baldwin (Graduate Institute, Geneva and NBER)
Toshihiro Okubo (Keio University)
"GVC Journeys when National and Territorial Comparative Advantage Differ"
Discussant: Masashige Hamano (Waseda University)
- 9:40 am **Ayako Obashi (Aoyama Gakuin University)**
"Trade Agreement with Cross-Border Unbundling"
Discussant: Hirokazu Ishise (Osaka University)
- 10:20 am Coffee Break

Chair: Kenichi Ueda (University of Tokyo)

10:40 am **Takeo Hoshi (Stanford University and NBER)**

Kozo Kiyota (Keio University)

"Potentials for Inward Foreign Direct Investment in Japan"

Discussant: Yasuyuki Todo (Waseda University)

11:20 am **Keith Head (University of British Columbia)**

Thierry Mayer (Sciences-Po)

"Misfits in the Car Industry: Offshore Assembly Decisions at the Variety Level"

Discussant: Robert Owen (University of Nantes)

12:00pm Lunch

Chair: Pramuan Bunkanwanicha (ESCP Europe and Development Bank of Japan)

1:00 pm **Gabrial J. Falbermayr (Ifo Center for International Economics),**

Fukunari Kimura (Keio University)

Toshihiro Okubo (Keio University)

Marina Steininger (Ifo Center for International Economics)

"Quantifying the EU-Japan Economic Partnership Agreement"

Discussant: Shujiro Urata (Waseda University)

1:40 pm **Kathryn Russ (UC, Davis and NBER)**

Kelly Stangl, (University of California at Davis)

Deborah Swenson, (University of California at Davis and NBER)

"Trade Diversion and Trade Deficits under the Korea-U.S. Free Trade Agreement"

Discussant: Konstantin Kucheryavyy (University of Tokyo)

2:20 pm Coffee Break

Chair: Shin-ichi Fukuda (University of Tokyo)

- 2:40 pm **Akira Sasahara (University of Idaho)**
“Explaining the Employment Effect of Exports: Value-Added Content Matters”
Discussant: Tadashi Ito (Gakushuin University)
- 3:20 pm **Olena Ives (Queen’s University)**
Walter Park (American University)
Patent Reforms and Exporter Behaviour: Firm-Level Evidence from Developing Countries
Discussant: Keiko Ito (Chuo University)
- 4:00 pm Coffee Break
- Chair: Junichi Nakamura (Development Bank of Japan)
- 4:20 pm **Meredith Crowley (University of Cambridge)**
Ning Meng (Zhejiang University)
Huasheng Song (Zhejiang University)
“Policy Shocks and Stock Market Returns: Evidence from Chinese Solar Panels”
Discussant: Eiichi Tomiura (Hitotsubashi University)
- 5:00 pm **Heiwai Tang (SAIS, Johns Hopkins)**
Hiroyuki Kasahara (University of British Columbia)
“Excessive Entry and Exit in Export Markets”
Discussant: Daisuke Fujii (University of Tokyo)
- 5:40 pm Adjourn

(2) 東アジア研究交流事業 (NBER-TCER 東アジア経済セミナー) 報告

東アジア経済セミナーは、2018年6月21・22日に韓国(ソウル)において、伊藤隆敏氏(コロンビア大学・政策研究大学院大学)とAndrew Rose氏を共同オーガナイザーとし、また韓国開発研究院(Korea Development Institute (KDI))をローカルスポンサーとして、The Westin Chosun Seoul内会議場で開催されました。本年度のテーマは”Political Economy”でした。TCERからは、赤井伸郎氏(大阪大学)、植田健一氏(東京大学)が

論文発表者として、塩路悦朗氏（一橋大学）、星岳雄氏（スタンフォード大学）、植杉威一郎氏（一橋大学）が討論者として参加しました。また、藤原一平氏（慶応義塾大学）も論文を発表しました（ANU 派遣）。全部で 12 本の論文が提出され、活発な議論が展開されました。プログラムの詳細や発表論文につきましては、以下のサイトをご覧ください。

<http://papers.nber.org/sched/EASE18>

（３）東アジア研究交流事業（『アセアンライジング』出版予定）ご案内

TCER=ERIA 出版事業では、ERIA（東アジア・アセアン経済研究センター）の委託を受け、「ERIA-TCER アジア経済統合叢書」と題する 10 冊程度の本のシリーズを出版する事業を行っています。『ASEAN の自動車産業（第 7 巻）』、『タイ・プラス・ワンの企業戦略（第 6 巻）』に続き、2018 年 10 月に第 1 巻（シリーズ 3 冊目）『アセアンライジング（ポンチアーノ・インタル 編著、西村英俊 監訳、岩崎総則・植木靖 共訳）』が頸草書房より出版予定です。

（４）TCER=TIFO フェローシップ事業報告

本フェローシップは、東南アジアの研究者と日本の経済学研究者との間での日本を含めた経済問題に関する共同研究を促進することを目的とし、公益財団法人東芝国際交流財団からの助成を受けて、東南アジアに本拠を置く経済学研究者もしくは東南アジア出身を日本に呼び寄せる資金を提供するもので、2013年度に開始された事業です。

2018 年度分は当初の募集に応募がありませんでしたが、応募条件を緩和して再募集したところ、3 件の応募があり、うち以下 2 件に助成が決まりました。

①受給者: 有村俊秀氏（早稲田大学）

テーマ: Are Energy Conservation “Nudges” Effective?

Evidence from a Randomized Residential Field Experiment in the Philippines and the Comparison with Japanese Experiences

共同研究者: Maja-Leah Ravago 氏 (School of Economics, University of the Philippines, Assistant Professor)

②受給者: 祝迫得夫氏（一橋大学）

テーマ: アジア地域の金融監督のあり方について

共同研究者: Aekkachai Nittayagasetwat 氏 (NIDA Business School, Associate Professor)
David Ding 氏 (Singapore Management University, Associate Professor)他

なお、事業開始当初から緩和した応募条件は以下のとおりです。

- ・「東南アジアの研究者」と限定していたものを、「東南アジアに研究の本拠を置く研究者、もしくは東南アジア出身の研究者であればよい」へ変更。
- ・日本滞在期間の長さ限定があったものを、研究内容によっては「滞在期間の長さにかかわらず助成」へ変更。

公2 学術研究交流促進事業

(1) ミクロ経済分析事業 (2017年度 DC コンファレンス) ご案内

第24回 DC コンファレンスは、2018年9月7日(金)に早稲田大学早稲田キャンパス15号館02室と03室にて行われます。本コンファレンスは、ミクロ経済学の理論的アプローチに関する論文を主たる対象に、一般均衡、ゲーム、社会的選択、メカニズム・デザイン、経済動学等の経済理論、国際経済、公共経済、労働経済、金融、産業組織、企業組織等の応用分野で理論モデルに基づく論文も対象にしています。プログラム委員は下記の通りです。なお、報告論文の投稿は7月31日(火)に締め切られました。

開催日：2018年9月7日(金)

場所：早稲田大学早稲田キャンパス15号館02室および03室

プログラム委員：石川 竜一郎(早稲田大学・オーガナイザー)、梶井 厚志(京都大学)、篠潤之介(早稲田大学)、関口 格(京都大学)、水上 英貴(青山学院大学)、宮城島 要(青山学院大学)

(2) マクロ経済分析事業 (2018年度マクロコンファレンス) ご案内

第20回マクロコンファレンスを、2018年11月17日(土)・18日(日)に一橋大学国立キャンパス(マーキュリータワー7階マーキュリーホール)で開催します。報告ご希望の方は下記の4人の代表兼プログラム委員に、報告希望の論文をメールの添付ファイルで9月16日(日曜日、日本時間)までにお送りください。また、希望討論者を2名ご推薦ください。ただし、事前に本人の承諾を取っていただく必要はありません。

報告希望の論文の提出はフルペーパーであることが望ましいですが、10ページ程度の要旨でも構いません。ただし、要旨でのお申し込みの場合、フルペーパーを4人の代表兼プログラム委員および討論者宛に11月2日(金、日本時間)までに提出してください。

テーマは特に定めませんが、日本経済の直面する問題に答えようとするマクロの理論・実証研究を特に歓迎します。また選定においては、論文の質が同程度と判断される場合には、若手研究者・大学院生を優先します。論文・プレゼン資料・報告は日本

語でも英語でもよいものとします。ただし、オーディエンスには日本語で質問する権利を認める方針ですので、あらかじめご了承ください。

採択の有無は10月13日(土)頃までにお知らせいたします。なお、発表者・討論者・座長の旅費・宿泊費は主催者が負担いたします。ただし、外国から参加される方は、旅費のお支払いはできない場合がありますが、あしからずご了承ください。

多数の方からのご応募をお待ち申し上げます。

開催日：2018年11月17日(土)・18日(日)

場所：一橋大学国立キャンパス(マーキュリータワー7階マーキュリーホール)

報告応募〆切：9月16日(日、日本時間)

代表兼プログラム委員：櫻川昌哉(慶応義塾大学)、塩路悦朗(一橋大学)、敦賀貴之(大阪大学)、渡辺努(東京大学)

主催：TCER(東京経済研究センター)、大阪大学社会経済研究所(科研S)、慶應義塾大学経済学部、東京大学金融教育研究センター、一橋大学経済研究所経済社会リスク研究機構

(3) TCER 定例研究会(2018年度TCER研究会)報告

2018年度のTCER研究会は一橋大学にて行われています。TCER定例研究会は、フェローの方はいつでも参加できます。今年度前半は以下の通り開催されました。

第1回 4月10日(火) 17:10~18:40

和田賢治(慶應義塾大学)

Unconventional Monetary Policy and the Bond Market in Japan: A New-Keynesian Perspective

第2回 4月12日(木) 17:10~18:40

田鹿智哉(一橋大学)

Polarization and inefficient information aggregation in an electoral competition"

第3回 4月12日(木) 17:15~18:45

1. 五十嵐徹(一橋大学院生)

Continuous-time Mutual Fund Separation and Utility Functions in the Presence of Stochastic Risk-free Rate

2. 柳樂明伸(一橋大学院生)

名目株価の変化がリターンの変動に与える影響

第4回 4月17日(火) 17:10~18:40

Tatsuro Senga(Queen Mary University of London)

A New Look at Uncertainty Shocks: Imperfect Information and Misallocation

第5回 4月19日(木) 17:10~18:40

Eunhee Kim (City University of Hong Kong)

The Market for Reputation: Repeated Matching and Career Concerns

第6回 4月26日(木) 17:15~18:45

山寄輝 (法政大学)

Probability Weighting and Default Risk: A Solution for Asset Pricing Puzzles

第7回 5月8日(火) 17:10~18:40

齊藤 誠 (一橋大学経済学研究科)

On the possibility of deflationary equilibria with monetary expansion: A reconciliation between the fiscal theory of the price level and the quantity theory of money

第8回 5月10日(木) 17:10~18:40

Jaeok Park (Yonsei University)

Core and Top Trading Cycles in a Market with Indivisible Goods and Externalities

第9回 5月10日(木) 17:15~18:45

Joseph French (University of Northern Colorado)

Disentangling the relationship between liquidity and returns in Latin America

第10回 5月22日(火) 17:10~18:40

八木橋毅司

Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin (joint with Juan Du)

第11回 5月24日(木) 17:10~18:40

Achim I. Czerny (The Hong Kong Polytechnic University)

Monopolistic information strategies: hidden versus revealed service quality when customers are heterogeneous (joint with Pengfei Guo and Refael Hassin)

第12回 5月24日(木) 17:15~18:45

1. 羽田徹也 (一橋大学院生)

株主価値志向が日本製造業の広義の投資に与える影響

2. 本田朋史 (一橋大学院生)

金融危機と融資枠 —コミットメントライン、当座貸越がもたらした効果の検証—

3. 蔡越 (早稲田大学院生)

Competitive Position and Cash Holdings

第13回 5月26日(土) 14:30~18:00

1. 小島 健 (一橋大学)

Tempting goods, self-control fatigue, and time preference in consumer dynamics (co-authored with Shinsuke Ikeda)

2. 浅野 貴央 (岡山大学)

State Separability in Choquet Expected Utility and Totally Monotone Capacities (co-authored with Hiroyuki Kojima)

第14回 5月29日(火) 17:10~18:40

Wataru Miyamoto (Bank of Canada)

International Linkages and the Changing Nature of International Business Cycles

第15回 5月31日(木) 17:10~18:40

堀江真由美 (広島経済大学)

Cardinal Utility Representation Separating Ambiguous Beliefs from Preferences

第16回 6月7日(木) 17:10~18:40

Keiichi Kawai (University of New South Wales)

Robust Pricing with Refunds

第17回 6月12日(火) 17:10~18:40

向山敏彦 (Georgetown University)

Firm Growth through New Establishments (joint with Dan Cao and Erick Sager)

第18回 6月14日(木) 17:15~18:45

David Vera (California State University Fresno)

Old Boy Network, Capital Injection and Banks' Returns: Evidence from Japanese Banks

第19回 6月19日(火) 17:10~18:40

Schlegl, Matthias (JSPS International Research Fellow at Osaka University)

Credit Booms, Debt Overhang and Secular Stagnation (joint with Gerhard Illing and Yoshiyasu Ono)

第20回 6月28日(木) 17:10~18:40

田村翔平 (関西学院大学)

Strategy-proof, fair, and efficient allocation of a sharable indivisible good and money (joint with Shinji Ohseto)

第21回 6月28日(木) 17:15~18:45

戸辺玲子 (早稲田大学)

Scarcity and Spotlight Effects on Liquidity and Yield: Quantitative Easing in Japan

第22回 7月3日(木) 17:10~18:40

Kei Kawakami (青山学院大学)

Disclosure and Efficiency in Takeover Markets

第23回 7月5日(木) 17:10~18:40

Susumu Sato (東京大学)

Do Agency Contracts Facilitates Upstream Collusion?

第24回 7月6日(金) 17:10~18:40

梶井厚志 (京都大学)

Re-examination of rational expectation equilibria: Intertemporal efficiency does not imply a common price forecast (joint with Shurojit Chatterji and Huaxia Zeng)

第25回 7月12日(木) 17:10~18:40

Georgy Artemov (University of Melbourne)

Strategic 'Mistakes': Implications for Market Design Research (joint with Yeon-Koo Che and Yinghua He)

第26回 7月12日(木) 17:15~18:45

安田和弘 (法政大学)

Bitcoin におけるマイニング業者の収益性に関するモデリングの考察: 損保数理を用いたアプローチ

第27回 7月17日(火) 17:10~18:40

西山慎一 (京都大学)

Achieving Actuarial Balance in Social Security: Measuring the Welfare Effects on Individuals (with Salahattin Imrohoroglu)

第28回 7月19日(木) 17:10~18:40

鎌田雄一郎 (Haas School of Business)

Optimal Timing of Policy Announcements in Dynamic Election Campaigns

第29回 7月19日(木) 17:15~18:45

野澤良雄 (Federal Reserve Board, Division of Monetary Affairs)

Liquidity Supply and Demand in the Corporate Bond Market

第30回 7月26日(木) 17:10~18:40

Hideto Koizumi (Wharton School)

Necessary and Sufficient Conditions for the Non-emptiness of the Core in the Economy with Many Sellers and Many Buyers of Finitely Many Indivisible, Heterogeneous Goods Involving Complementarities

第31回 7月26日(木) 17:15~18:45

木下亮 (東京経済大学)

Intertemporal CAPM and horizon-specific risk prices in the Japanese stock markets

第32回 7月30日(月) 11:30~17:45

7月31日(火) 9:15~16:15

1. Yi-Chun Chen (National University of Singapore)

Maskin Meets Abreu and Matsushima: Repeated Implementation (co-authored Takashi Kunimoto, Yifei Sun and Siyang Xiong)

2. Takashi Hayashi (University of Glasgow)

Can Everyone Benefit from Economic Integration? (co-authored Christopher P. Chambers)

3. 芹澤成弘 (大阪大学)

Strategy-Proof Multi-Object Mechanism Design: Ex-Post Revenue Maximization with Non-Quasilinear Preferences

4. Rakesh Vohra (University of Pennsylvania)

Why Centralized Markets are Not Stable (co-authored Ahmad Peivandi)

5. Taisuke Imai (LMU Munich)

Approximate Expected Utility Rationalization (co-authored Federico Echenique and Kota Saito)

6. Xiangyu Qu (CNRS)

Utilitarian Aggregation with Reasonably Heterogeneous Beliefs (co-authored Antoine Billot)

7. Jawwad Noor (Boston University)

Intuitive Beliefs

8. Jimmy Chan (Chinese university of Hong Kong)

Pivotal Persuasion (co-authored Seher Gupta, Fei Li and Yun Wang)

9. Ichiro Obara (UCLA)

Controlling Cultivation of Taste

編集後記

厳しい暑さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。2018 年度 1 号目のニュースレターをお送りいたします。お忙しい中、ご執筆いただいた理事やコンファレンス主催者の方々に感謝申し上げます。今年度も TCER を引き続きよろしく願いいたします。

Newsletter に関するご意見やご感想は代表理事 小川英治 eiji.ogawa@r.hit-u.ac.jp または総務理事 原 ひろみ harahiromi@fc.jwu.ac.jp までご連絡下さい。

=====

公益財団法人 東京経済研究センター

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 703 号室

Tel & Fax 03-3239-2524 Email: tcer@mbs.sphere.ne.jp